平成１９年度評価問題「ゆうチャレンジ」（熊本県学力調査）　中学校１年　理科　出題のねらい等

連番	大問	中問	小問	分野（領域）及び学年	学習指導要領の内容		出題のねらい	観点 自然事象への関心・意欲・態度	科学的な思考	観察・実験の技能・表現	自然事象について知識・理解
①	1	(1)	ｱｲ	B 物質とエネルギー　小６	B (1)ア	水溶液の性質や働き	アルカリ性水溶液でのリトマス紙の色の変化を指摘できること。			○	
②		(2)		B 物質とエネルギー　小６	B (1)ア	水溶液の性質や働き	リトマス紙を使って水溶液の性質を適切に調べることができること。			○	
③		(3)		B 物質とエネルギー　小６	B (1)イ	水溶液の性質や働き	水溶液の性質を打ち消し合う要因について考察できること。		○		
④		(4)		B 物質とエネルギー　小６	B (1)イ	水溶液の性質や働き	水溶液の性質が自然環境に与える影響について見直そうとすること。	○			
⑤	2	(1)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)ア(ア)	生物の観察	ルーペの使い方を身に付けていること。			○	
⑥		(2)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)ア(ア)	生物の観察	双眼実体顕微鏡の使い方を身に付けていること。			○	
⑦		(3)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(ア)	生物の観察	マツの花の基本的なつくりとそのはたらきを関連づけて考えることができること。		○		
⑧		(4)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(ア)	生物の観察	マツの種子が風に飛ばされやすくできていることをその形状から推察できること。		○		
⑨		(5)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(ア)	生物の観察	マツの種子の形状に関心をもち，種子の役割と関連づけて考えようとすること。	○			
⑩	3	(1)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	蒸散の実験の基本操作を習得していること。			○	
⑪		(2)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	蒸散の実験の基本操作を習得していること。			○	
⑫		(3)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	蒸散は，葉の裏でさかんに行われていることを理解していること。				○
⑬		(4)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	蒸散の実験の基本操作をふまえ，目的に応じた実験を計画できること。			○	
⑭		(5)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	光合成でできたデンプンの有無を確かめる実験を習得していること。			○	
⑮		(6)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	光合成の確認のための対照実験の必要性と基本操作をふまえた実験を計画できること。			○	
⑯		(7)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	植物の光合成によって二酸化炭素が使われることを理解し，実験結果を推察できること。		○		
⑰		(8)		２分野 植物の生活と種類　中１	(1)イ(イ)	植物の体のつくりと働き	植物のはたらきについての事物・現象に関心をもち，意欲的に表現しようとすること。	○			
⑱	4	(1)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ウ)	光と音	光と音の伝わる速さは異なり，光の伝わる速さの方が速いことを理解していること。				○
⑲		(2)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ウ)	光と音	空気中を伝わる光と音の速さの違いについて，日常生活と関連づけて考えようとすること。	○			
⑳		(3)	ｱｲｳ	１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ウ)	光と音	音は空気中を波として伝わり，音の大きさと高低の原因を理解していること。				○
㉑		(4)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ウ)	光と音	音は壁などにぶつかると反射する体験と音の伝わる速さを関連づけて考えることができること。		○		
㉒		(5)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ウ)	光と音	空気中を伝わる音の速さと距離を使って，音の伝わるまでの時間を計算できること。		○		
㉓	5	(1)		A 生物とその環境　小６	A (1)イ	人の体のつくりと働き	実験操作の意味を口の動きと関連づけて考え，適切に表現できること。			○	
㉔		(2)		A 生物とその環境　小６	A (1)ウ	人の体のつくりと働き	だ液のはたらきによって，デンプンが分解されることを理解していること。				○
㉕		(3)		A 生物とその環境　小６	A (1)イ	人の体のつくりと働き	だ液のはたらきは，体温と同じ温度のときによくはたらくことを理解していること。				○
㉖	6	(1)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)イ(ア)	力と圧力	実験をもとに物体の動きと関連づけて，摩擦の力について考えることができること。		○		
㉗		(2)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)イ(ア)	力と圧力	力のつりあいを矢印を用いて図示できること。			○	
㉘		(3)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)イ(イ)	力と圧力	底面積と力の大きさから圧力を比較して考察できること。		○		
㉙		(4)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)イ(イ)	力と圧力	圧力の大きさを計算で求めることができること。			○	
㉚	7	(1)		１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ア)	光と音	空気中から水中へと光が屈折するときの道すじを理解していること。				○
㉛		(2)	ア	１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ア)	光と音	異なる物質の中を光が進むときには，屈折が起こることを理解していること。				○
㉜		(3)	イ	１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ア)	光と音	光の屈折と屈折角が90°に達したとき全反射が起こることを理解していること。				○
㉝		(4)	ウ	１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ア)	光と音	光の屈折と見える像についての規則性を考察できること。		○		
㉞			エ	１分野 身近な物理現象　中１	(1)ア(ア)	光と音	光の屈折と見える像についての規則性を考察できること。		○		